

平成 28 年度理事会、学術評議員会ならびに社員総会における報告承認決定事項

第 59 回一般社団法人日本糖尿病学会年次学術集会は、稲垣暢也会長主宰のもとに平成 28 年 5 月 19, 20, 21 日の 3 日間、国立京都国際会館、ロームシアター京都、みやこめっせにおいて開催された。これに先立ち 5 月 18 日に理事会および学術評議員会がホテルグランヴィア京都で開催され、また定時社員総会は 5 月 20 日に国立京都国際会館で開催された。

1. 平成 27 年度事業報告および庶務報告

●事業報告

1. 第 58 回年次学術集会

会 長 谷澤 幸生（山口大学大学院医学系研究科病態制御内科学分野）

会 期 平成 27 年 5 月 21 日（木）～5 月 24 日（日）

会 場 海峡メッセ下関、下関市民会館、下関市生涯学習プラザほか

参加者 約 11,500 名

○会長講演

○特別講演 Philippe Froguel, インペリアル・カレッジ・ロンドン教授

○特別講演 Ralph Anthony DeFronzo, テキサス大学教授

○理事長声明

○学会賞受賞講演

ハーグドーン賞 インスリン分泌不全に関連する体質の分子遺伝学的研究

リリー賞 糖尿病再生医療に向けた膵β細胞新生・成熟機構の解明
動物モデルをもとにした糖尿病遺伝素因の解明

○会長特別企画

私の留学体験記—研究留学へのいざない—
糖尿病患者の心と体を支える—サイエンスとヒューマニティーの融合—

○シンポジウム

SGLT2 阻害薬—新たな糖尿病治療の夜明けとなるか— 他 26 題

○教育講演

糖尿病食事療法—食品交換表改訂のポイント— 他 25 題

○ディベートセッション（巖流島ディベート） 5 題

○糖尿病劇場

○療養指導実践道場

○教育セミナー

○若手研究奨励賞 審査口演 15 題

○一般演題 2,811 演題（口演 1,339 題、ポスター 1,472 題）

2. 第 50 回「糖尿病学の進歩」

世話人 内湯 安子（東京女子医科大学糖尿病・代謝内科）

会 期 平成 28 年 2 月 19 日（金）・20 日（土）

会 場 東京国際フォーラム

参加者 4,570 名

○レクチャー

糖尿病合併症に関する疫学からの知見

他 72 題

○シンポジウム

薬物療法総論

他 39 題

○特別企画

糖尿病診療における 50 年間の進歩 —インスリン— 他 14 題

3. 地方会活動

1) 第 49 回日本糖尿病学会北海道地方会

会 期 2015 年 11 月 15 日（日）

会 場 旭川グランドホテル

会 長 羽田 勝計（旭川医科大学内科学講座病態代謝内科学分野）

参加者 601 名（有料 557 名、無料＝学生および招待者 44 名）

2) 第 53 回日本糖尿病学会東北地方会

会 期 2015 年 11 月 7 日（土）

会 場 仙台国際センター

会 長 片桐 秀樹（東北大学病院糖尿病代謝科）

参加者 1,008 名

3) 第 53 回関東甲信越地方会

会 期 2016 年 1 月 23 日（土）・24 日（日）

※24 日は指定講演のみ

会 場 パシフィコ横浜

会 長 栗田 卓也（現、国際医療福祉大学病院糖尿病内分泌代謝科）

- 参加者 2,717 名（無料参加者を含む）
- 4) 第 89 回日本糖尿病学会中部地方会
会 期 2015 年 10 月 4 日（日）
会 場 静岡コンベンションアーツセンター
（グランシップ）
会 長 井上 達秀（静岡県立総合病院糖尿病・内分泌代謝センター）
参加者 725 名
- 5) 第 52 回日本糖尿病学会近畿地方会
会 期 2015 年 11 月 14 日（土）
会 場 国立京都国際会館
会 長 前川 聡（滋賀医科大学内科学講座
糖尿病・腎臓・神経内科）
参加者 2,375 名（学生および招待者を含む）
- 6) 第 53 回日本糖尿病学会中国・四国地方会
会 期 2015 年 10 月 30 日（金）・31 日（土）
会 場 米子コンベンションセンター
会 長 谷口 晋一（鳥取大学医学部地域医療学）
参加者 916 名
- 7) 第 53 回日本糖尿病学会九州地方会
会 期 2015 年 11 月 27 日（金）・28 日（土）
会 場 アクロス福岡
会 長 井口登典志（九州大学先端融合医療レ
ドックスナビ研究拠点）
参加者 2,008 名（内訳：医師・企業 803 名，コ
メディカル 1,092 名，研修医 48 名，学
生 41 名，招待者・スタッフ 24 名）
4. 年次学術集会・糖尿病学の進歩・地方会の管理・
運営
本学会が主催する年次学術集会の運営を一元的に管
理し，財政負担を削減するために年次学術集会の運営
に関して日本コンベンションサービスと長期契約を行
い効率的な運用に努めている．また，糖尿病学の進歩
および各地方会においても準備状況を適宜報告してい
ただき学会事務局でまとめている．
5. 支部長会活動
2016 年 2 月 18 日に東京にて第 4 回支部長会が開催
された．
6. 分科会活動
- 1) 第 30 回日本糖尿病合併症学会
会 期 平成 27 年 11 月 27 日（金）・28 日（土）
会 場 愛知県産業労働センター ウィンクあ
いち
会 長 中村 二郎（愛知医科大学医学部内科
学講座糖尿病内科）

- 参加者 952 名
7. 出版事業
1. 会誌「糖尿病」第 58 巻 4 号，第 58 回年次学術集
会抄録号～第 59 巻 3 号まで，13 回発行
会誌 Diabetology International Volume 6・
Number 2-4, Volume 7・Number 1, 4 回発行
2. 糖尿病患者向け指導書
①糖尿病食事療法のための食品交換表 第 7 版
100,000 部発行
②糖尿病治療の手びき 改訂第 56 版
13,000 部発行
③糖尿病性腎症の食品交換表 第 2 版
1,500 部発行
④糖尿病食事療法のための食品交換表 CD-ROM 版
（ver.4） 増刷なし
⑤糖尿病性腎症の食品交換表 CD-ROM 版（ver.2）付
き 増刷なし
⑥ Food Exchange List 増刷なし
⑦糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編 第
2 版 増刷なし
3. 医師，コ・メディカル向け指導書
①こどもの糖尿病・サマーキャンプの手引き 第 3
版 増刷なし
②糖尿病食事療法指導のてびき 第 2 版 増刷なし
③糖尿病療養指導の手びき 改訂第 5 版
3,000 部発行
④糖尿病治療ガイド 2014-2015 増刷なし
⑤糖尿病学用語集 第 3 版 増刷なし
⑥糖尿病遺伝子診断ガイド 第 2 版 増刷なし
⑦糖尿病専門医研修ガイドブック 改訂第 6 版
2,000 部発行
⑧小児・思春期糖尿病コンセンサス・ガイドライン
2,200 部発行
⑨科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン
2013 増刷なし
⑩糖尿病医療者のための災害時糖尿病診療マニュアル
1,000 部発行
8. 糖尿病週間
平成 27 年 11 月 9 日～15 日，第 51 回全国糖尿病週
間の行事が一斉に行われた．テーマは「ライフステー
ジにあわせた糖尿病治療」．
9. 国際糖尿病連合会議
1) IDF-WPR Executive Board Meeting (2015.11.29,
バンクーバー) への出席
2) IDF-WPR Council Meeting (2015.11.29, バン

- クーパー) への出席
- 3) IDF General Assembly (2015.11.30, バンクーバー) への出席
- 4) IDF Global Village への出席
- 5) AASD Annual Meeting (2015.11.21-22, 香港) への出席
- 6) EASD Association Village への出席
- 7) 日欧交換留学プログラム受賞者の選出
10. 普及・啓発・後援事業
- 1) 日本糖尿病協会への協力
「さかえ」および「つぼみ」発行の企画等
- 2) 世界糖尿病デーへの参加
第9回「世界糖尿病デー」関連イベントの開催
- 3) 糖尿病と癌に関する合同委員会
- 4) 日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同委員会
- 5) 日本糖尿病・妊娠学会との合同委員会
- 6) 高齢者糖尿病の診療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会
- 7) 「メタボリックシンドローム撲滅運動キャンペーン」
平成27年4月1日～平成28年3月31日
- 8) 第50回日本理学療法学会
平成27年6月5日～7日
- 9) 第2回チャレンジ！糖尿病いきいきレシピコンテスト
平成27年6月10日～10月4日
- 10) 世界口腔保健学会大会記念「第21回口腔保健シンポジウム」
平成27年7月4日
- 11) 心の絆プロジェクト シンポジウム
平成27年7月中旬～10月31日
- 12) 第21回日本小児・思春期糖尿病研究会年次学術集会
平成27年7月12日
- 13) 第3回日本糖尿病協会療養指導学術集会
平成27年7月25日～26日
- 14) 第7回JSDEIセミナー「糖尿病、口腔保健と栄養の推進セミナー」
平成27年7月26日
- 15) 第32回糖尿病Up・Date 賢島セミナー
平成27年8月29日～30日
- 16) 第12回国際メイラード反応シンポジウム
平成27年9月1日～9月4日
- 17) Take ABI & Echo 2015
平成27年9月13日
- 18) 第4回日本くすりと糖尿病学会学術集会
平成27年9月26日～27日
- 19) 平成27年度「食育健康サミット」
平成27年10月22日
- 20) 第13回1型糖尿病研究会
平成27年10月31日～11月1日
- 21) 第15回日本先進糖尿病治療研究会
平成27年11月7日

- 22) 平成27年度「糖尿病シンポジウム」
平成27年11月14日(東京都会場)
平成28年3月13日(愛知県会場)
- 23) 糖尿病予防キャンペーン 西日本地区講演会
平成27年11月29日
- 24) 第27回分子糖尿病学シンポジウム
平成27年12月5日
- 25) 第27回日本糖尿病性腎症研究会
平成27年12月5日～6日
- 26) 第11回長寿医療研究センター国際シンポジウム
平成28年2月6日
The 11th International Symposium on Geriatrics and Gerontology
(略称: ISGG)

●庶務報告

1. 総会

平成27年5月21日、海峡メッセ下関にて第58回定時社員総会を開催した。平成26年度事業報告、庶務報告、収支決算報告が承認され、また平成28年度事業計画が承認された。第61回会長に宇都宮一典学術評議員が選出・承認された。

2. 学術評議員会

平成27年5月20日に開催された。

3. 理事会

定例理事会は平成27年5月20日、11月23日、臨時理事会は平成28年2月18日の合計3回開催された。

●会員状況報告(平成28年3月31日現在)

1. 役員等

1) 役員

理事 17名(26年度末 17名)

監事 2名(26年度末 2名)

2) 学術評議員 714名(26年度末 672名 43名増、物故者1名)

2. 会員等

1) 名誉会員 34名(26年度末 31名、追加4名、物故者1名)

2) 正会員

27年3月末日会員数 17,293名

27年度新入会 578名

名誉会員へ -4名

退会 -514名 退会内訳

希望退会 366名

会費未納による資格喪失 109名

物故者 39名

正会員 現在数 17,353名(60名増)

3) 賛助会員

26年3月末日会員数 42名

退会 -5名

賛助会員 現在数 37名

3. 物故会員

名誉会員 阿部 正和

功労学術評議員 三宅清兵衛 矢島 義忠

学術評議員 徳盛 豊

会員 五十嵐 裕 逸見 博男 井上 修一

植屋 悦男 梅田 研 大久保生男

大坂 公子 荻野宗次郎 荻原 典和

勝谷 成子 叶 亜紀子 川崎 富泰

九島 昌彦 紅露 恒男 後藤 曄

斎藤 史郎 笹井 智令 佐々木盛徳

佐藤 和一 猿井 宏 澤田 大成

飛田 英司 中村 徹 中山 徹

新村 進 野見山賢介 服部 雄一

伴 良雄 松本 孝 真弓 健治

水野 昭 三宅 賢一 望月 保宏

山口 初宏 山田 信博

(敬称略, 連絡のあった方のみ)

2. 委員会報告および各種報告

〈出版に関する報告〉

1. 「糖尿病」編集委員会 委員長 吉岡 成人

表1

投稿数	原著	症例報告	レビュー	短報	報告	委員会報告	編集者への手紙		
100	40	48	1	4	2	3	2		
	原著	症例報告	レビュー	短報	報告	委員会報告	編集者への手紙	計	採択率
採択	22	35	1	3	1	4		66	73%
否	10	12		2			3	27	(昨年76%)

表2

	原著	症例	短報	委員会報告	特集	地方会 (抄録)	その他
Vol. 58 No. 4	3	3			糖尿病合併症の早期診断と進展予防		
Supplement 1	第58回年次学術集会 抄録号						
No. 5	1	4	1			東北	
No. 6	3	3		JDCP study2: 1型糖尿病の登録時臨床像—糖尿病合併症の実態とその抑制に関する大規模観察研究			
No. 7	3	2				近畿	
No. 8	2	1	1	糖尿病運動療法・運動処方確立のための学術調査研究委員会—わが国における糖尿病運動療法の実施状況 (第1報)	糖尿病を合併する見逃せない難治性疾患	九州	
No. 9	0	6	1			北海道	
No. 10	2	5	1	日本糖尿病・妊娠学会と日本糖尿病学会との合同委員会「妊娠中の糖代謝異常と診断基準の統一化について」			世話人特別企画
No. 11	2	4		糖尿病運動療法・運動処方確立のための学術調査研究委員会「わが国における糖尿病運動療法の実施状況 (第2報)」			
No. 12	4	5					
Vol. 59 No. 1	1	2			摂食栄養素と高血糖	中国四国	会長講演 受賞講演
No. 2	3	1				東北	
No. 3	2	1		糖尿病と癌に関する委員会報告 第2報			

- 1) 委員会開催状況 6回(平成27年4月19日, 5月23日, 8月2日, 10月18日, 12月20日, 平成28年3月6日)
- 2) 論文投稿受付状況及び採択率(表1)
- 3) 第58巻4号から第59巻3号までの12誌と「第58回年次学術集会抄録号」を発行した。詳細は表2のとおりである。
- 4) 委員改選に伴い委員長選出を行った結果, 委員長に吉岡成人委員, 委員長の指名により副委員長は小宮一郎委員に決定した。
- 5) 第58巻7号から紙媒体での発行が終了しペーパーレス化され, 電子ジャーナルJ-STAGEでの閲覧を実施した。ただし, 抄録号は希望者のみ冊子体を購入することができる。
- 6) 掲載後に転載元の許諾なしに図を引用掲載していた論文が発覚し, 著者からの撤回申し出により, J-STAGEに掲載されていた論文の撤回手続きを行った。
- 7) 臨床研究における倫理審査の在り方について検討を行い, 患者からの同意書の提出を義務付けるなど投稿規定の改訂と同意書の作成を行った。平成28年2月1日新規投稿受付論文から実施した。

2. 「Diabetology International」編集委員会

委員長 春日 雅人

- 1) 委員会開催状況 1回(平成27年5月23日)
- 2) 論文投稿状況及び採択率

2016年3月31日現在

	2012	2013	2014	2015	2016
Total Submitted	72	79	54	78	28
Monthly average	6	6.6	4.5	6.5	9.3
Total Decisioned	53	63	43	70	21
(Accept)	38	47	30	49	15
(Reject)	15	16	13	21	6
Acceptance Rate	72%	75%	70%	70%	71%

3) 出版状況

紙媒体がVol. 6-2をもって廃止となったが, 引き続きOnline Journalにて2015年Vol. 6-1~4までを予定通り刊行した。

4) 委員会報告掲載状況

Title	Volumes & Issues
Diagnostic criteria for slowly progressive insulin-dependent (type 1) diabetes mellitus (SPIDDM) (2012): report by the Committee on Slowly Progressive Insulin-Dependent (Type 1) Diabetes Mellitus of the Japan Diabetes Society	Vol. 6-1

Evidence-based practice guideline for the treatment for diabetes in Japan 2013	Vol. 6-3
A large-scale, observational study to investigate the current status of diabetes complications and their prevention in Japan: research outline and baseline data for type 2 diabetes—JDCP study 1	Vol. 6-4

5) リリー賞受賞論文(2015)掲載状況

Name	Title	Volumes & Issues
Takeshi Miyatsuka	Uncovering the mechanisms of beta-cell neogenesis and maturation toward development of a regenerative therapy for diabetes	Vol. 6-4
Norihide Yokoi	Elucidation of genetic factors in diabetes based on studies of animal models	Vol. 6-4

6) Editorialの執筆について

平成27年5月に開催された, 日本糖尿病学会定例理事会にて, 理事に対しEditorialの執筆依頼を行った。現在, 輪番で理事にEditorialをご執筆いただいている。

7) Impact Factor取得について

2013年9月11日に申請した, ISIデータベースへの収載について, 今回は十分な引用回数なかったということで, 収載はrejectされた。2017年末には再申請が可能となるため, それまでにしっかり引用を伸ばして再申請に向けて準備を整える必要がある。

8) PubMedへの収載申請について

2014年2月1日以降, 投稿規定の倫理に関する部分を改訂し, 審査通過のための準備を進めてきた。条件の一つである, 定期刊行も順調になされており, 2016年2号がリリース(6月)されたのち, 遅くとも7月中旬くらいまでには申請手続きを完了する予定で準備を進めている。尚, 審査は2017年2月に行われる予定である。

3. 「食品交換表」編集委員会 委員長 石田 均

1) 委員会開催回数9回

平成27年4月26日(腎症改訂・カーボカウント合同), 5月23日(食品交換表編集委員会), 6月21日(腎症改訂・カーボカウント合同), 9月6日(腎症改訂), 9月27日(腎症改訂・カーボカウント合同), 10月18日(腎症改訂), 11月8日(食品交換表・腎症改訂・カーボカウント合同), 2016年1月24日(腎症改訂), 2月21日(食品交換表・腎症改訂・カーボカウント合同)

2) 出版事業

食品交換表および関連書籍の平成 27 年度（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月）の売上・発行状況。ただし（ ）内の数字は発行以来の累計部数。

- (1) 糖尿病食事療法のための食品交換表 第 7 版
売上部数：110,902 部（424,423 部），発行部数：100,000 部（500,000 部）
- (2) 食品交換表活用編 第 2 版
売上部数：6,382 部（11,773 部），発行部数：0 部（30,000 部）
- (3) 糖尿病性腎症の食品交換表 第 2 版
売上部数：3,246 部（115,243 部），発行部数：1,500 部（119,500 部）

3) 引用許可願いの審査状況

「食品交換表 第 7 版」に 43 件申請があり，審査結果の内訳は無条件許可 4 件，条件付許可 33 件，審査前取り下げ 3 件，審査中 0 件，審査前修正依頼中 0 件，不許可 3 件。「活用編 第 2 版」に 6 件申請があり，審査結果は無条件許可 1 件，条件付許可 5 件であった。「腎症 第 2 版」の引用許可願いは 0 件であった。

4) 「腎症食品交換表改訂 3 版」刊行について

「食品交換表 第 7 版」に準拠した内容とすべく第 3 版改訂作業は，学術評議員にパブコメを募集し，それを検討，加筆修正を終え，平成 28 年 6 月に刊行される。

5) 「カーボカウントの手引き」について

準備してきた原稿案を「食品交換表 第 7 版」に準拠した内容へ加筆調整を行い 2017 年発行に向け作業を進めている。患者対象版，指導者対象版の 2 冊に分けて出版する予定である。

4. 「糖尿病治療の手びき」編集委員会

委員長 石塚 達夫

委員会開催：平成 27 年 5 月 21 日，平成 28 年 2 月 20 日

売上部数は，2015 年 4 月～2016 年 3 月時点で「糖尿病治療の手びき（改訂第 56 版）2014 年 6 月発行」が約 13,730 部，「糖尿病療養指導の手びき（改訂第 5 版）2015 年 5 月発行」が約 1,450 部である。

指導者（医師・コメディカル）用書籍「糖尿病療養指導の手びき（改訂第 5 版）」を 5 月 15 日に発行した。（今改訂は，『糖尿病治療の手びき（改訂第 56 版）』（2014 年 5 月刊行）に対応した改訂）

今後の取り組みとして，①「糖尿病治療の手びき」「糖尿病療養指導の手びき」改訂のたびに売上部数が減少傾向にある現状を鑑み，今後売上部数増加のための取組を検討する。取組例として，1) 改訂年には

日本糖尿病学会学術集会，糖尿病学の進歩において関連するセッション開催を要望する。2) 日本糖尿病協会や日本糖尿病療養指導士認定機構に刊行後献本を行うなど，関連誌や関連学術誌での宣伝を依頼する。②「糖尿病治療の手引き」に掲載の図表・イラストをスライド集にまとめた教育用ツールを作成する。「糖尿病療養指導の手びき」には CD 付録を制作する。などを検討課題としていく。

「糖尿病治療の手びき」次回改訂時期は，「糖尿病診療ガイドライン 2016」「糖尿病治療ガイド 2016-2017」刊行後に，その内容を確認のうえ，2016 年 5 月より改訂内容の検討を行う。

5. 小児糖尿病委員会 委員長 浦上 達彦

1) 「小児・思春期糖尿病の手びきコンセンサス・ガイドライン（日本糖尿病学会・日本小児内分泌学会編・著）」が平成 27 年 6 月 5 日に発行された。

2) 小児思春期糖尿病ガイド（仮題）（編・著日本糖尿病学会・日本小児内分泌学会）の作成について，日本糖尿病学会理事会ならびに小児内分泌学会の承認が得られ，著作権は日本糖尿病学会，小児内分泌学会の共同とし，印税は全て日本糖尿病学会に支払うことが確認された。執筆に関しては，日本糖尿病学会小児糖尿病委員会，小児内分泌学会糖代謝委員会が行うことになり，執筆者を選定した。また記載内容は小児・思春期発症 1 型糖尿病に絞ることが確認された。

3) ISPAD Clinical Practice Consensus Guidelines 2014 の日本語翻訳が，日本小児・思春期糖尿病研究会で計画され，翻訳化が進んでいる。

4) 小児科医の日本糖尿病学会専門医を増やす活動の一環として，小児科医における日本糖尿病学会会員，専門医に関する実態調査を行った。今後教育認定施設および連携教育施設の更なる拡充，専門医・指導医の養成のために，その解決策を協議・検討する予定である。

6. 糖尿病治療ガイド編集委員会

委員長 稲垣 暢也

委員：荒木栄一，井口登典志，植木浩二郎，宇都宮一典，大澤春彦，古家大祐，綿田裕孝，今村聡（日本医師会）

委員会開催回数 2 回（2015 年 10 月 11 日，2016 年 2 月 18 日）

「糖尿病治療ガイド 2014-2015」（2014 年 5 月 18 日発行）の売上部数は 16,367 部であった（2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 30 日時点）。

2016 年 6 月 1 日刊行「糖尿病治療ガイド

2016-2017」の改訂は、各分担にもとづいて従来通りの基本方針である「糖尿病診療ガイドライン」と内容の整合性をとり、新薬剤情報も加えることとした。同時期刊行の「糖尿病診療ガイドライン 2016」や他学会との合同委員会においても、内容上の齟齬が生じないように、双方間で内容を共有、確認をし、用語の統一も行った。また、「糖尿病治療ガイド 2014-2015」改訂時に反映出来なかった学術評議員、専門医認定委員からの意見や、学会ホームページを利用して募集した学術評議員からのパブコメについて検討し加筆修正を行った。

7. 糖尿病学用語集編集委員会

委員長 綿田 裕孝

本年度の第4版「糖尿病用語集」編集委員会では、インターネット掲載を考慮し、第3版に掲載されている用語の中から、重複する用語や不要な用語等の整理作業にあたっている。第3版までは印刷物であり、かつ辞典的意味合いもあったが、本版では掲載用語を糖尿病用語に絞る予定としている。本年度に4回の委員会を開催し、用語の整理作業が完了した。整理後の用語一覧データは、日本医学会（以下、医学会）分科会用語委員会からの依頼に従い、「医学用語辞典」としてのチェックのために医学会に提出している。医学会のチェックが完了次第、公開へと進める予定としている。

8. 糖尿病専門医研修ガイドブック作成委員会

委員長 谷澤 幸生

委員会開催 1回（2016年3月6日）

「改訂第6版」を2014年6月1日に刊行し、2015年4月～2016年3月末時点の売上部数は1,785部であった。改訂第7版発行の準備に着手した。本書の項目立てとなる「糖尿病専門医研修カリキュラム」の一部変更に伴い、委員が分担して執筆者を推薦し2017年5月の刊行を目指して作業を進める予定である。

9. 糖尿病診療ガイドライン策定に関する委員会

委員長 羽田 勝計

2015年8月8日（土）、東京で開催した。「糖尿病診療ガイドライン 2016」は、2016年5月の第59回年次学術集会での刊行を予定しており最終校正段階である。今回はクリニカル・クエスチョン（CQ）を取り入れ、CQに対するステートメントに関して討議を行った後に、推奨グレードを策定委員会の投票で決定した。また、同時期刊行の「糖尿病治療ガイド 2016-2017」や他学会との合同委員会においても、

内容上の齟齬が生じないように、双方で内容を共有、確認し、用語の統一もおこなった。日本老年医学会との合同委員会で作成した高齢者糖尿病の血糖コントロール目標を2016版に掲載した。今改訂から書名を「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン 2016」から「糖尿病診療ガイドライン 2016」に変更した。

10. 英語版「糖尿病診療ガイドライン」編集委員会

委員長 田嶋 尚子

委員：折笠秀樹、後藤 温、坂本昌也、野田光彦、能登 洋、羽田勝計、藤田征弘、藤本 啓、矢部大介

英語版「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン 2013」は平成26年5月20日付で完成し、学会ホームページに掲載し閲覧が可能となった。2015年4月1日～2016年3月31日間に4,718回のsite visitがあった。ハードコピーについては、Diabetology International (DI) Volume. 5 Number. 2 (2015年6月発行)に掲載された。委員会は開催していない。

〈学術調査研究・教育に関する報告〉

11. 平成28年度坂口賞および学会賞に関する報告

理事 植木浩二郎

- 1) 坂口賞は、清野裕会員、南條輝志男会員および松浦信夫会員に授与する。
- 2) 学会賞審査委員会（加来浩平委員長）を平成28年1月24日に開催し、各受賞者を選出した。

(1) 平成28年度ハーゲドーン賞

荒木栄一（熊本大学大学院生命科学研究部代謝内科学分野）

「糖尿病の成因・病態の分子生物学的解析と新規糖尿病治療法への応用」

(2) リリー賞

i) 金崎啓造（金沢医科大学糖尿病内分泌内科学）

「内皮細胞 DPP-4 が演じる病理学的意義の解明」

ii) 宇野健司（東北大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科学分野）

「メタボリックシンドロームの病態形成における臓器間神経ネットワークの意義の解明」

12. 学術調査研究・教育委員会

委員長 羽田 勝計

2015年4月24日（金）、委員会を開催した。1. 日本糖尿病学会と国立国際医療研究センターとの共同研究、2. 若手研究助成金、3. 臨床研究の発表に

ついて、4. JDCP について、議論した。「第1回糖尿病学会若手研究助成金」に関しては、その募集・審査を行い、10件の申請を採択した。既に電子媒体を用いた理事承認を受け、申請者への通知を終了した。10月6日に委員会を開催し、第1回の問題点抽出と、第2回に向けた対策を検討した。「第2回糖尿病学会若手研究助成金」の募集は2016年2月に行われ、4月24日に選考が行われる。この2回の選考をふまえて5月7日に本委員会を開催し、問題点等について検討する予定である。

13. 学術調査研究等倫理審査委員会

委員長 池上 博司

委員：稲垣暢也、内潟安子○、佐藤恵子*、高本誠介*、山田雅康**

事前審査委員：大沼 裕、馬場谷成

注) *：外部委員，**：弁護士，○：副委員長
平成26年12月22日付け文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の「構成及び会議の成立要件等」に示されている、『分野，外部委員，男女，人数』などの要件に沿って選考され定例理事会で承認された委員6名にて新委員による委員会が発足した。また、事前審査委員として2名を選任し、申請書類の不備等についての事前確認を依頼することとした。

第1回の委員会が平成27年8月9日に開催され、「インクレチン治療のヒト膵腫瘍発生リスクに関する臨床病理学的研究」の申請、および「1型糖尿病関連遺伝子群の多施設共同研究」の期間延長に伴う変更申請に関し、事前審査委員の事前確認を経た各提出書類について検討した。

その後は、書面回覧による審議を行い、「糖尿病治療に関連した重症低血糖の調査委員会」の一部変更申請も含め、各申請に対して回答を行った。

また、新委員による委員会の発足に合わせて、学術調査研究等倫理審査委員会の委員会規定が策定され、理事会のみなし決議を経て平成27年8月9日付けで施行された。

日本糖尿病学会 学術調査研究等倫理審査委員会規定

第1条 本内規は学術調査研究等倫理審査委員会（以下本委員会と略す）に関する規定である。

第2条 本委員会は、日本糖尿病学会が指定する学術調査研究等について、その実施計画その他の倫理上の問題点の有無を遵守すべき法令および指針に則って審査し、その活動が円滑に実

施されるようにすることを目的とする。倫理上の問題点がある場合には、それについての指摘を行ない、是正を勧告する。

第3条 本委員会の委員は、平成26年12月22日付け文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づき、

①医学・医療の専門家等，自然科学の有識者
②倫理学・法律学の専門家等，人文・社会科学の有識者

③研究対象者の観点も含めて一般の立場から意見を述べるのできる者

それぞれから各1名以上，男女両性および本学会に所属しない複数の者を含む，5名以上で構成されるよう理事長が指名し，理事会により承認を受ける。

第4条 委員の任期は2年とし，再任を妨げない。

第5条 委員長は委員の中から理事長が指名し，理事会の承認を受ける。

第6条 委員長は，委員の中から副委員長を指名する。副委員長は，委員長が職務を執行できない場合，これを代行する。

第7条 委員会の開催にあたっては，第3条に示した委員の各構成要件をすべて満たすものとする。

第8条 委員は，自らが関与する事案については，審議に参加することができない。これによって，委員会の開催要件を満たすことができなくなる場合には，理事長は特例委員を指名し，理事会の承認を受ける。特例委員の任期は当該事案の審議が終了するまでの期間とする。

第9条 任期の途中で委員に欠員が生じた場合には，理事長はその補充のため新たに委員を指名し，理事会の承認を受ける。当該委員の任期は，前任者の残余の任期とする。

第10条 審議方法については，学会規定の申請書に記載され提出された内容について討議する。討議方法については，①委員を招集して委員会を開催する。または，②各委員が回答書にて意見を述べ，そのまとめを委員長が行なったのち再度委員の意見をまとめる持ち回り審議を行なうものとする。

第11条 本委員会において承認された事案について，申請書の記載事項に反する行為が発覚した場合には，本委員会はそれについて指摘を行ない，改善勧告を行なうものとする。

第12条 本規定は平成27年8月9日より施行する。

14. 年次学術集会運営委員会

委員長 羽田 勝計

2015年12月23日、東京で委員会を開催した。今回は「第58回日本糖尿病学会年次学術集会」の経過等を参考に、2016年の「第59回（京都市）」および2017年の「第60回（名古屋市）」の概要に関し議論した。両学会共に準備状況は良好であるとの結論に至った。尚、女性糖尿病医をpromoteする委員会から要望されたホスピタリティールームは第59回においては提供することとした。

15. 「糖尿病学の進歩」運営委員会

委員長 羽田 勝計

2015年4月24日（金）、東京で開催した。2016年2月19、20日に東京で開催される「第50回糖尿病学の進歩」のプログラム案を検討した。「第50回糖尿病学の進歩」は盛会裏に終了した。現在、「第51回糖尿病学の進歩」を検討する委員会の日程を調整している。尚、今後本委員会には、庶務担当常務理事・会計担当常務理事にも加わって頂き、「糖尿病学の進歩運営委員会」と改称・改組することになった。

16. 食事療法に関する委員会

委員長 宇都宮一典

委員会開催：1回（平成28年2月19日）

「糖尿病診療ガイドライン2016」の食事療法のドラフトについて、意見交換を行った。総エネルギー摂取量の設定法に関して、エネルギー必要量にはかなりの個人差があり、一律に目標体重を規定することは実効性がない。治療開始前には従来通りの方法で目安量を定めるが、その後は代謝状態の改善を評価しながら、適正体重の個別化を図るよう記載することで意見の一致をみた。本来、現体重を何%減量すればよいかについて、科学的根拠が必要であるが、現時点における文献の考察から、肥満例では5%の減量を目指すこととし、今後の検討課題とした。門脇孝理事長から、高齢者糖尿病の食事療法について、別個に検討してほしいとの要望があり、現在策定中の老年医学会とのガイドラインの中で、食事療法に追加すべき項目を提案することとした。また、「糖尿病治療ガイド2016-2017」の糖尿病腎症の生活管理基準を確認した。糖尿病腎症の食品交換表の進捗状態が報告された。

17. 糖尿病関連検査の標準化に関する調査検討委員会

委員長 難波 光義

委員：伊藤博史、及川真一、笹原誉之、三家登喜夫、

武井 泉、富永真琴、西尾善彦、柱本 満、村上正巳、山門 實

2015年5月22日（金）に下関にて開催し、HbA1cの標準化とHbA1c適正運用機構の活動、および血糖自己測定機器の認証制度移行について確認した。インスリンアッセイの標準化と学会が推奨できる負荷試験用標準食の開発については、前者で未だにクリアすべき技術的課題が多いこと、後者で開発に協力できる候補企業が現状見当たらないことなどから、継続検討とした。

18. アンケート調査による日本人糖尿病の死因に関する研究委員会

委員長 中村 二郎

委員：荒木栄一、稲垣暢也、植木浩二郎、神谷英紀、谷澤幸生、中山健夫、羽田勝計

2001年～2010年の10年間のデータとして、45,708症例（男：29,801名、女：15,907名）を対象として解析を行い、学会誌「糖尿病」に投稿する準備を進めている。

4月17日に委員会を開催して報告を行うとともに、次期（2011年～2020年）の調査に関しての検討も行う予定である。

19. 日本人1型糖尿病の成因、診断、病態、治療に関する調査研究委員会

共同委員長：花房 俊昭

共同委員長：小林 哲郎

平成27年11月1日（日）に第7回委員会、平成28年2月19日（金）に第8回委員会を開催した。

1) 劇症および急性発症1型糖尿病分科会（委員長：花房俊昭）

「劇症1型糖尿病死亡例・心停止例の検討」についての論文はDiabetology International誌に受理され、「劇症1型糖尿病のMRI所見」についての論文は再投稿準備中である。「劇症1型糖尿病例のアミラーゼ自己抗体の発症後の推移」に関して調査継続中である。あらたに「抗ヒトPD-1/PD-L1抗体投与後に発症する1型糖尿病に関する疫学調査」が開始予定である（申請中）。また、本件については、学会からの「重要なお知らせ」として、「免疫チェックポイント阻害薬に関連した1型糖尿病ことに劇症1型糖尿病の発症について」をホームページに掲載した。なお、劇症1型糖尿病の登録は505例（2016年4月1日現在）である。

2) 緩徐進行1型糖尿病分科会（委員長：小林哲郎）

調査1：「2型糖尿病の経過の途中から1型が発

症した例」(島田朗委員・及川洋一委員)は投稿準備中である。調査2:「GAD抗体陽性にも関わらず進行のみられない緩徐進行1型糖尿病例」(全国調査,川崎英二委員)は現在論文投稿中である。その他:「GAD抗体測定法の変更への対処法に関するRecommendation」を作成した。

3) 遺伝子解析チーム(チームリーダー:池上博司)

日本人1型糖尿病の体質を明らかにして,診断・予防・治療に資する情報を得ることを目的に,3つのサブタイプ(急性発症,劇症,緩徐進行)の疾患感受性遺伝子解析の網羅的解析を進めている。劇症1型糖尿病のGWASの結果,HLA以外でゲノムワイド有意水準をクリアしたSNPの領域をfine mappingし,限局した候補遺伝子領域に関して次世代シーケンサーを用いたシーケンス解析を進めている。

20. 糖尿病治療に関連した重症低血糖の調査委員会

委員長 難波 光義

委員:赤澤宏平,渥美義仁,岩倉敏夫,佐藤 譲,西村理明,松久宗英,山内敏正

「糖尿病治療に関連した重症低血糖の調査研究」の進捗状況は以下の通りである。

- 1) 平成27年7月24日に認定教育施設631施設へ依頼状を発送し,調査への参加を依頼した。
- 2) 参加を表明した施設には,倫理審査に必要な書類を送付し,各施設で倫理審査委員会に諮ってもらい,Web登録システムを利用して,データを登録してもらっている。
- 3) 調査は,施設の実態調査(施設データ)と個々の症例に関する調査(症例データ)で,平成28年3月13日現在,施設データ:参加表明施設数327,登録施設数150(登録率46%)
症例データ:参加表明施設数201,登録施設数89(登録率44%),登録症例数578である。
- 4) さらに登録数を増加させるため,平成28年3月30日に,登録期間を平成28年6月30日まで延長することを通知し,追加の登録を行う予定があるか問い合わせた。
平成28年4月5日現在,追加登録を予定している施設が,施設データで22施設,症例データで19施設であり,さらなる登録数の増加を期待している。
- 5) また,解析の方向性について検討し,登録締め切り後の解析に備えることとした。
- 6) 6月30日の登録締め切り後,夏に委員が分担して解析を行い,糖尿病学の進歩や年次学術集会において結果報告を行う。また,結果をまとめて,

学会誌「糖尿病」と「DI」に掲載する。

21. 膵・膵島移植に関する常置委員会

委員長 稲垣 暢也

委員:栗田卓也,今川彰久,岩本安彦,島田 朗,鈴木敦詞,馬場園哲也,藤倉純二,脇 嘉代,
以下2名は日本膵・膵島移植研究会より 穴澤貴行,後藤満一

平成27年10月1日に開催された日本膵・膵島移植研究会の膵・膵島移植実務者ワーキンググループで,膵臓移植適応判定申請書に記載する血糖の不安定性(重症低血糖,無自覚低血糖の有無等)について,CGMの結果等を加味して無自覚低血糖を定義することの必要性が指摘されたため,平成27年12月20日に委員会を開催して検討した。

48時間以上のCGMの結果から24時間血糖変動のSDを計算し,SDが50~70mg/dlの場合,低血糖のpredictabilityが強いと考えられるため,申請時には48時間以上のCGMを提出してもらおうという内容で,膵臓移植中央調整委員会に提案した。

また,膵臓移植中央調整委員会より依頼された,膵臓移植待機患者のデータ解析について,データベース化を進めている。

22. インクレチン薬治療のヒト膵腫瘍発生リスクに関する(臨床病理学的研究)調査委員会

委員長 八木橋操六

委員:稲垣暢也,植木浩二郎,寺内康夫,水上浩哉,綿田裕孝

研究協力者:近藤しおり,中路重之,藤井丈士

Dipeptidyl peptidase IV (DPP-IV) 阻害薬やGlucagon-like peptide (GLP)-1アナログあるいはGLP-1受容体刺激薬などのインクレチン関連薬が我が国の市場に上梓されすでに5年以上経過した。当初懸念された膵炎への影響も高率にはみられていない。しかしながら,インクレチン関連薬治療は長期にわたることから,腫瘍発生あるいは増殖促進に関する懸念については注意深い経過観察がなお必要となっている。本委員会は,インクレチン関連薬に関する安全性について我が国独自での多施設調査の必要性から設置されたものである。膵病理での検証を必要とすることから,十分な数の検索標本の取得と関連する研究倫理性の確保が指摘されている。とくに昨年度,臨床研究倫理指針が改正になり,本調査研究実施についてもそれに適応する必要性が生じてきた。そこで,糖尿病学会事務局より新指針に合致するような研究計画の改訂が求められ申請書の改訂版を糖尿病学会倫理委員会へ再提出した。その結果,

数回の修正を加えたのち本研究計画が本年3月に承認となった。これまで、膵臓症例の蒐集が十分でなかったことから、今後改めて日本糖尿病学会認定の糖尿病教育病院施設に対してインクレチン関連薬使用例の剖検例についての調査、標本蒐集の依頼を求めるよう計画中である。一方、これまで協力病院から得られたインクレチン関連薬治療例で膵臓標本を得ることができたのは14例であり、それに対して病理学的評価を実施中である。予備的観察では膵重量にインクレチン関連薬非使用例と差はみられず、膵での新規腫瘍病変の発生は認めていない。内分泌細胞については免疫多重染色を実施し、詳細な形態計測を実施中である。これまで、明らかな増殖性病変は検出していない。しかしながら、糖尿病患者ではインクレチン関連薬の使用の有無に拘わらず膵管内乳頭状粘液産生腫瘍の好発をみており、治療でどのように修飾されるかの検討も必要とされる。現在、病理学的検証項目について改めて委員会で検討予定にある。

〈学会認定事業に関する報告〉

23. 専門医認定委員会 委員長 谷澤 幸生
委員会は6回開催された。2015年度の専門医試験は358名が申請。書類審査を経て340名が筆記・面接試験を受験し264名（受験申請者合格率74%）が合格した。研修指導医の新規申請は93名（随時申請も含む）、認定教育施設30施設、教育関連施設17施設、連携教育施設（小児科）3施設が認定された。専門医更新辞退61名、研修指導医更新辞退18名であり、2016年4月現在の専門医数は5,362名、研修指導医1,766名、認定教育施設667施設、教育関連施設63施設、連携教育施設（小児科）22施設である。

試験結果を受け、専門医試験委員会との合同WGを開催した。小児科の論述問題の採点方法の公平性、小児科用選択問題数適正化、口頭試験の在り方、成績開示について検討を行った。

今年度から後任研修指導医および教育施設の随時審査の認定を四半期毎に行うこととし、個別審査後、複数名の専門医認定委員による検討会を6月、8月、12月、2016年2月に行った。

専門医制度規則改訂を行った。主な変更点は、認定教育施設を「認定教育施設I」・「認定教育施設II」・「認定教育施設III」に変更した。専門医および研修指導医について5年で更新出来ない場合、専門医資格停止としHP名簿削除をすること、資格停止後に更新した場合、認定期間は通常通り5年とすることとした。前回の更新から10年を超えて更新できな

かった場合、専門医に復帰申請後、3年以内に症例報告30症例、糖尿病学会企画の学術集会等への出席単位16単位および指定講演20単位取得、患者教育の実績の提出を条件とすることとした。また、育児等で常勤とみなす時間短縮勤務は週25時間以上勤務を目安とすることとした。その他、専門医申請及び更新申請書類のうち症例報告に「1型糖尿病症例」「増殖前網膜症以上に進展した網膜症合併例」「3期以上の腎症合併例」を1例ずつ含めることを義務付けており、周知することとした。専門医及び研修指導医申請書類のうち症例記録で症例要件に「全身麻酔で行った手術例」「心筋梗塞・脳卒中・多発外傷など急性期における糖尿病管理症例」「インスリン依存状態にある1型糖尿病症例」の3症例を必須症例とした。

新専門医制度に関して2015年8月26日に日本専門医機構からヒアリングを受けた。ヒアリングでの課題を検討し、内分泌代謝科専門医と異なる糖尿病専門医の役割と独立性がわかる糖尿病専門医研修プログラムを作成すべく、WGを立ち上げ、3月19日に開催された。旧機構に承認された専門医制度の認定期間が10月末日となっており、現専門医機構に認定されるためのヒアリングが、6月頃に行われる。そこで糖尿病専門医研修プログラムを提出し、評価を受けて修正を行いながら、11月1日から新制度での認定を受け、プログラムを完成させる予定である。小児科領域の糖尿病専門医研修プログラムも課題を検討し、作成する。

24. 専門医試験委員会

委員長 宇都宮 一典

平成27年5月21日、第43回試験委員会を開催し、第26回専門医試験の試験方法と出題問題の作成分担、口頭試験担当者、試験監督担当者を決めた。昨年度より、選択問題・論述問題それぞれに小児科用問題を設けることとなり、小児科の試験委員2名により問題が作成された。8月23日に委員長と数名の委員により試験問題のチェックを行い、9月23日に委員全員で試験問題の選定を行った。第26回専門医試験は、平成27年10月25日、東京国際フォーラムにおいて実施した。

受験者は340名で、11月3日に合否判定案を作成、11月8日に専門医認定委員会に報告、264名の合格者（試験での合格率74%）が確定した。今年度も希望のあった受験者に対し成績の開示を行なった。小児科では8名が受験し、4名の合格（試験での合格率50%）が確定した。小児科の合格率が低かったことから、専門医認定委員会より平成28年度以降

の試験に向けて検討依頼があり、平成 28 年 2 月 19 日に合同 WG を行った。

小児科の論述問題の採点方法の公平性、小児科用選択問題数適正化、口頭試験の在り方、成績開示について意見交換を行った。その結果、小児科の採点方法を見直し、問題数を増やすこととした。また、全受験者の口頭試験の在り方や成績開示内容についても話題にしたが、これは引き続き検討課題とした。問題数を増すために、2 名の小児科委員の増員を理事会に依頼することとした。

第 27 回（平成 28 年度）の試験は 10 月 23 日（日）都市センターホテルにて、第 28 回（平成 29 年度）の試験は 10 月 22 日（日）東京国際フォーラムにて実施を予定している。

〈その他学会活動に関する報告〉=====

25. 選挙管理委員会

委員長 花房 俊昭

委員：渥美敏也、檜尾好徳、佐々木敬、榊原文彦、
前川 聡、松岡 孝、土井康文

例年同様、本委員会は郵便、e-mail 等を利用して委員会活動を進めていくこととし、従来の申し合わせに従い、理事会推薦の花房俊昭委員を委員長とし、以下の事項を確認した。28 年度「会長選挙」の手順は前年度の「会長選挙手順」を踏襲し、

- 1) 支部からの推薦締切日は平成 27 年 11 月 7 日（土）とする。
- 2) 推薦された方の意思確認は 11 月 13 日（金）までに事務局必着とする。
- 3) 理事長への報告は 11 月 18 日（水）までに行う。
- 4) 11 月 23 日（月祝）の定例理事会で、最終候補者 3 名を決定する。
- 5) 候補者の所信のフォーマットは前年度と同様とし、平成 28 年 1 月 18 日（月）を締切日とする。

平成 28 年 2 月 21 日（日）に委員会を開催し、以降の進め方について協議検討した。

- 1) 会長選出手順およびこれまでの手順についてそれぞれ確認した。
- 2) 所信の確認
2 名の候補者から提出された所信について、内容、印刷の字体や文字数、行間隔などを検討し、本人への指摘事項を決定した。
- 3) 今後の手順について
所信の手直し終了後に、規則に則り従来の形で理事長への報告、会員への周知、学術評議員への所信の送付等を行うことが確認された。昨年と同様に、学術評議員のうち、メールマガジンでの送付

が可能な方へは従来の郵送をやめ、メールマガジンにて所信がホームページに掲載されたことを通知し、閲覧を促すこととした。その代りに、学術評議員会で配布する資料に所信を掲載することとした。

4) 学術評議員会での投票手順の確認について

- (1) 開票作業には、会長候補者のいない支部の出席委員と、候補者のいない支部から委員長が指名した者、委員長を含めて最大 11 名である。今回は北海道支部、中部支部、近畿支部、中国・四国支部、および九州支部所属の出席者から、5 名に依頼する。
- (2) 投票用紙配布直前に会場を閉鎖し、回収後開放する。このことは、学術評議員へ候補者の所信を通知する際に記載する。
- (3) 今回も候補者名を予め投票用紙に記載し、所定の欄に丸印を付したものを有効とする。
- (4) 最多得票者に決定する。同数の場合は学会入会年月の早い者とする。
- (5) 各候補者の得票数は公表する。
- (6) 迅速に開票作業を行うため、投票用紙を折り曲げて投票する場合は「横二つ折りまで」とすることを注意事項として通達する。

以上は、議場で予め公表する。

26. 将来計画委員会（第 2 次）委員長 荒木 栄一
今年度は委員会の開催は行われていない。平成 28 年度に、これまでの提言の実現状況の確認や、新 5 ヶ年計画の実現に向けての委員会を開催予定である。

27. 定款・細則検討委員会 委員長 羽田 勝計
委員：渥美義仁、稲垣暢也、井口登典志、植木浩二郎、大澤春彦、寺内康夫、中村二郎、山田祐一郎、（事務局：山田雅康弁護士、久保まゆみ会計士）

本年度は定款、細則ともに変更がなく委員会は開催していない。

28. 女性糖尿病医を promote する委員会

委員長 成瀬 桂子

平成 27 年 7 月 5 日および平成 28 年 1 月 10 日に委員会を開催した。

1) 女性糖尿病専門医実態調査アンケートについて

平成 27 年 3 月 23 日～4 月 6 日に My Page のアンケートシステムを利用した女性糖尿病医実態調査アンケートを実施し、My Page 登録済の女性専門医 1,346 名中、449 名（33.4%）の回答があった。集計結果をまとめ、「糖尿病 News No.

2」に掲載した。

2) 女性糖尿病医サポートの取り組みサイトの拡充について

HPの「女性糖尿病医サポートの取り組み」ページに女性糖尿病医の声を掲載する「キラリ☆女性医師!」のコーナーを開設した。4月:2名, 6月:2名, 8月:2名, 10月:1名, 12月:2名の寄稿を掲載した。

また、日本の糖尿病学において女性医師として道を開拓、そして現在も牽引されている先生方より寄稿をいただく「女性糖尿病医のフロントランナー」のコーナーを開設し、6月に大森安恵先生、1月に伊藤千賀子先生にご寄稿いただいた記事を掲載した。いずれのコーナーも、今後さらに拡充していく予定である。

サイトの更新情報は、本委員会からの学会員宛メールマガジンとして不定期配信し、外部ニュースサイトでの告知記事掲載も行っている。

3) 学術集会について

年次学術集会、糖尿病学の進歩、地方会に、女性座長数の増加、託児所の充実について要望書を提出した。また、若手研究助成金に関し、女性糖尿病医サポートのための要望書を作成し、理事会、学術調査研究・教育委員会へ提出した。

女性糖尿病医を promote する委員会と日本医師会「医学生、研修医等をサポートするための会」との共催企画として、第53回中国四国地方会ならびに第53回九州地方会において女性糖尿病医サポートセミナー「輝け!女性糖尿病医」を開催し、いずれも聴講者にアンケートを取った。内容には満足という声が多く、次年度以降も継続すべく、検討している。また、講演の一部は、HPの「女性糖尿病医サポートの取り組み」ページに掲載し、閲覧できるようにしている。

4) 第59回年次学術集会における「女性糖尿病医を promote する委員会」の活動について

第59回年次学術集会において、シンポジウム「ジェンダーギャップを克服する～他分野の取り組みから考える～」を開催する。

また、会期中は国立京都国際会館にブースを設置し、委員会での活動を紹介する。

29. インターネット委員会 委員長 谷澤 幸生

1) 平成27年度のインターネット委員会については、特に新規の議題がないため、HP内容のアップデートなどについてメールで随時審議または承認を行った。

2) 本委員会は、[学会ホームページの構築・コンテ

ンツ作成が一通り完了していること][現在、ホームページを利用した各種情報発信は、庶務担当理事・各委員会・事務局を中心として行っていること]等を踏まえ、設立当初の役割を終えたものと考えその発展的解消を理事会に上申した。2016年2月18日の臨時理事会にてその旨が承認され、本委員会は活動を終了することとなった。

30. 広報委員会

委員長 植木浩二郎

委員: 安孫子亜津子, 石原寿光, 黒田暁生, 鈴木厚, 寺内康夫, 中神朋子, 西川武志, 西村理明, 矢部大介, 山田哲也

委員会開催: 2回 (平成27年11月27日, 平成28年2月20日)

2015年5月定例理事会で承認され発足した。本委員会の役割はどのような内容をどのような手段で周知していくかを協議し理事会はじめ関係委員会に要請する。また広報媒体として「糖尿病 News」やWebpageなど通じ、本学会の活動についても戦略的・積極的な情報発信を行っていく。今後、Webpageの階層変更や、今後当学会が行なうキャンペーンについて協議し提案内容をまとめる予定である。

31. 利益相反委員会

委員長 植木浩二郎

委員: 井口登興志, 岩崎直子, 古家大祐, 寺内康夫, 前川 聡, 山根公則, 山田雅康 (顧問弁護士)

日本内科学会の利益相反指針・細則の改定を受けて、本学会の指針・細則の改定を行った。改定に伴い、学会ホームページに掲載している指針・細則・開示スライド例および各種COIフォームを差替えた。また、糖尿病 News No. 1 (7月末発行) にも、主な改定や新旧対比表を掲載し「利益相反に関する指針および細則」改定に関する通知を行った。座長のCOI開示スライド実施については、平成28年度の糖尿病学の進歩から実施することとし、ポスターセッションの座長については口演の座長と比べてCOI開示の方法が難しいことから、当面は求めないこととする。

32. 糖尿病の保険診療報酬に関する検討委員会

委員長 渥美 義仁

医療費抑制の中、平成28年診療報酬改定に向け独自ならびに共同で提案した中で実現したのは、①人工臓器を用いた人工臓器療法 (J043-6: 3,500点/日)、②在宅妊娠糖尿病患者指導管理料対象者への血糖自己測定器加算、③人工透析患者に対する下肢末梢動脈疾患指導管理加算 (100点/月: 日本下肢救済・足病学会主導)、などである。人工臓器療法は、周術

期、高血糖救急などを目的に、世界で唯一のわが国の人工臓臓が3日を限度に算定可能となった。従来の人工臓臓を用いた検査は人工臓臓検査(D231)として変更はない。妊娠中の糖尿病患者またはハイリスクな妊娠糖尿病患者に対する血糖自己測定器加算が認められたことにより、妊婦の経済的負担が軽減され、コントロール状況改善が期待される。下肢末梢動脈疾患のケアが認められたことは、足切断リスクの最も高い糖尿病透析患者の下肢救済につながる。但し、下肢末梢動脈疾患管理加算は、EVT治療・心臓血管外科・形成皮膚科の三者を揃えた施設との連携が求められる。他、糖尿病関連案件としては、在宅自己注射療法の導入初期加算の増点(580点、ただし初期以降は750点と減額)、外来栄養食事指導料の増点(初回260点、2回目以降200点)、腎不全期患者指導加算などである。今回実現できず次回へ持ち越す案件は、①入院糖尿病患者に対する糖尿病診療医のコンサルテーション負荷の評価、②CGMの施設要件緩和、③IA2検査の年齢制限撤廃、④入院患者対象のCGMセンサーの算定、⑤糖尿病療養指導士による指導の評価、⑥非インスリン使用者へのSMBG加算、などである。

〈対外的活動に関する報告〉

33. 国際交流に関する報告 委員長 稲垣 暢也

1) 国際糖尿病連合(IDF) 関連

2015年11月29日バンクーバーにてIDF-WPR Executive Board MeetingおよびIDF-WPR Council Meetingが開催された。

IDF-WPR Council Meetingでは、ChairとしてProf. Wayne H H Sheu(台湾)が就任し、Chair-ElectにはProf. Linong Ji(中国)が選出された。また、門脇孝理事長が引き続きIDF-WPR Executive Board Memberに選出された。

IDFの支部である7つのregionをIDFの子会社として法的に確立させること、また、それに伴う定款の改訂については、2015年3月にPostal Ballotがおこなわれ、事前に全有効票数の97%の賛成をもって可決されていたが、このCouncil Meetingにて最終決議がなされた。

翌2015年11月30日には、IDF General Assemblyが開催され、PresidentとしてDr. Shaukat Sadikot(インド)が就任し、President-ElectにはProf. Nam Han Cho(韓国)が選出された。

出席者

(1) IDF-WPR Executive Board Meeting: 門脇 孝

(2) IDF-WPR Council Meeting: 清野 裕, 門

脇 孝, 堀田 饒, 稲垣暢也, 片桐秀樹, 矢部大介

(3) IDF General Assembly: 清野 裕, 門脇 孝, 堀田 饒, 稲垣暢也, 片桐秀樹, 矢部大介

<IDF-WPR>	
Chair	Prof. Wayne H H Sheu
Chair-Elect	Prof. Linong Ji
Executive Board Members	Prof. Alicia Jenkins
	Prof. Lee Moon-Kyu
	Prof. Lee-Ming Chuang
	Prof. Takashi Kadowaki
	Prof. Dato'Ikram Shah Ismail
<IDF>	
President	Dr. Shaukat Sadikot
President-Elect	Prof. Nam Han Cho

(任期2年)

2) EASD 関連

平成27年9月16日にストックホルムにて開催されたEASD2015の会期中にJDSとEFSDの合同協議を行った。

出席者

JDS: 稲垣暢也委員長, 植木浩二郎委員, 田嶋尚子委員, 山内敏正委員

EFSD: Prof. Ulf Smith

(1) East-West Forum

第59回日本糖尿病学会年次学術集会(2016年, 京都)に合わせて開催予定の第5回East-West Forumについて、テーマをSusceptibility to kidney disease in diabetesとすることで合意し、日本と欧州からそれぞれ3名程度ずつ演者候補を挙げ、epidemiology, genetic factor, biomarker, difference in blood pressure control, diet (protein and salt intake)というテーマに沿ったセッションを行うこととした。

(2) 平成27年度日欧交換留学プログラム

本年度は日本より3名の応募があり、この3名の候補者について最終選考を行った。

EFSDとJDS双方の審査委員による審査の結果、上位2名を採択することとした。

・寺崎道重会員(昭和大学病院)

・長尾元嗣会員(日本医科大学付属病院)

3) AASD 関連

(1) AASD Annual Scientific Meeting の開催

2015年11月21日~22日に香港にて、第7回年次学術集会が開催された。開催に先立

ち、前日 20 日には AASD-Executive Board Meeting が開催された。

出席者：稲垣暢也、植木浩二郎、門脇 孝、清野 裕、谷澤幸生、堀田 饒、矢部大介

また、会期中、AASD Award の授賞式が行われ次の 3 名が受賞した。

The Yutaka Seino Distinguished Leadership Award：Wilfred Fujimoto 先生（米国ハワイ大学名誉教授）

The Masato Kasuga Award for Outstanding Scientific Achievement：窪田直人先生（東京大学）

The Xiaoren Pan Distinguished Research Award for Epidemiology of Diabetes in Asia：Juliana Chan 先生（香港中文大学教授）

(2) アジア糖尿病学会 学術交流基金の設立

一般社団法人アジア糖尿病学会は、糖尿病に関する研究調査並びに広範囲に議論を行い、アジア地域の糖尿病研究の向上および知識の普及を図り、もってアジアの糖尿病患者の治療および管理の進歩を目指す、という目的の達成のため、「アジア糖尿病学会 学術交流基金」を設立した。

34. 日本医学会に関する報告 評議員 植木浩二郎

2015 年 6 月 24 日に行われた日本医学会連合の定時総会における役員改選により、糖尿病学会から門脇孝理事長が日本医学会の理事に選出された。規約により、本学会選出の評議員を交代することが必要となり、後任に植木浩二郎理事が就任、併せて連絡委員の後任に羽田勝計理事が就任することとした。また、島田朗学術評議員が用語代委員に就任した。

従って現在の糖尿病学会の各代表委員は以下の通りである。

評議員 植木浩二郎 連絡委員 羽田 勝計
用語委員 綿田 裕孝 用語代委員 島田 朗

2016 年 2 月 17 日に第 83 回日本医学会定例評議員会が開催された。日本認知症学会、日本集団災害医学会、および日本小児血液・がん学会の新規加盟が承認された。

35. 糖尿病総合対策への取り組みに関する報告

理事長 門脇 孝

2015 年 9 月 7 日（月）に第 15 回日本糖尿病対策推進会議幹事会が日本医師会において開催され、「日本糖尿病学会を中心とする診療情報ネットワークの構築」として、

- 国立国際医療研究センターと推進しているデータベースの構築

- 効果的・効率的な糖尿病研究の推進に向けた厚生労働省・AMED への提言

- 第 3 次対糖尿病 5 ヶ年計画

について詳細に報告した。また、糖尿病治療のエッセンスの改訂版作成について、承認が得られた。

2016 年 3 月 24 日に第 5 回日本糖尿病対策推進会議幹事会が日本医師会において開催され、糖尿病データベースの構築について詳細に報告した。また、糖尿病重症化予防等に対する政府の方針についての報告が厚生労働省ならびに経済産業省の担当課長からなされるとともに、当日総会後に厚生労働省において、日本医師会、日本糖尿病対策推進会議および厚生労働省の三者で、「糖尿病性腎症重症化予防に係る連携協定」が締結された。

「日本糖尿病対策推進会議」には年々新たな構成団体が加わり、現在は 4 つの幹事団体（日本医師会、日本糖尿病学会、日本糖尿病協会、日本歯科医師会）と 14 の構成団体（健康保険組合連合会、国民健康保険中央会、日本腎臓学会、日本眼科医会、日本看護協会、日本病態栄養学会、健康・体力づくり事業財団、日本健康運動指導士会、日本糖尿病教育・看護学会、日本総合健診医学会、日本栄養士会、日本人間ドック学会、日本薬剤師会、日本理学療法士協会）からなっている。（2016 年 3 月末現在）

1) 「対糖尿病戦略 5 ヶ年計画」作成委員会

委員長 植木浩二郎

委員：安孫子亜津子、石垣 泰、綿田裕孝、曾根博仁、山内敏正、成瀬桂子、今川彰久、矢部大介、藤本新平、南 昌江

平成 27 年 2 月 19 日の臨時理事会に提出したスライド案に理事からの意見を反映させて修正し、3 月 19 日～4 月 2 日まで学術評議員を対象にパブリックコメントを募集した。パブリックコメントを反映させて、5 月 20 日の定例理事会に提出し、学術評議員会、第 58 回年次学術集会において、「第 3 次対糖尿病 5 ヶ年計画」を発表した。スライドは HP に掲載し、閲覧できるようにした。

また、英語版「第 3 次対糖尿病 5 ヶ年計画」も作成し、冊子にして、第 51 回 EASD（平成 27 年 9 月 14 日～18 日、ストックホルム）にて配布した。

2) 「健康日本 21」の糖尿病対策検討委員会

委員長 荒木 栄一

(1) 委員会開催：

糖尿病対策検討委員会の開催はなし。

糖尿病治療のエッセンス改訂 WG 委員会を平成 27 年 10 月 12 日に開催した。

(2) 委員会活動

第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会の第 3 日目となる平成 27 年 5 月 23 日（土）に、下関市のシーモールパレスにおいて、糖尿病対策推進会議地区担当者連絡会議を開催し、日本糖尿病対策推進会議の幹事会活動と今後の方針について報告がなされた。次いで野田光彦委員と大澤功委員の司会で、栃木県の麻生好正先生、三重県の住田安弘先生、福島県の渡辺毅先生から各県内での活動報告がなされ、それぞれの地域での問題点や今後の方向性が討議された。

今後は広く会員にも聴講していただけるよう、年次学術集会のプログラムの一つとして、糖尿病対策推進会議地区担当者連絡会議が組み込まれ、第 59 回から実施されることとなった。（※平成 28 年 5 月 21 日（土）13:00～14:30、国立京都国際会館 1F Room Eにて開催。詳細は年次学術集会プログラムに掲載。）

また、理事会での決定に基づいて、各都道府県の糖尿病対策推進会議の委員の継続・交代について、各支部で調整していただくこととなり、決定した支部から随時報告を受けている。

本委員会が制作を担当している日本糖尿病対策推進会議編の「糖尿病治療のエッセンス」の改訂に向けて WG を設置し、平成 27 年 10 月 12 日に第 1 回の会議を開催し、主な変更点と各委員の担当ページを決定した。平成 28 年 5 月に発刊の「糖尿病診療ガイドライン 2016」や「治療ガイド 2016-2017」などとの統一をはかるため、完成は平成 28 年 6 月以降の予定である。また、HP に掲載されている「糖尿病対策推進啓発用のスライド」についても、この WG により改定作業を進めており、平成 28 年 4 月 16 日に第 2 回の会議を開催する。

3) 糖尿病データベースの構築委員会

委員長 田嶋 尚子

- (1) JDCP study は糖尿病合併症の発症と進展予防に関する前向きの観察研究で、平成 21 年に症例登録を開始し 6,338 名を追跡している。平成 26 年度に 1 型及び 2 型それぞれの調査開始時のデータを固定し、平成 27 年度

にベースラインデータ解析関連 2 論文を「糖尿病」に、その英文版を Diabetology International に投稿し、掲載された。わが国の近年における糖尿病の実態に関する興味深い知見が得られた。腎症 WG、運動療法 WG、疫学 WG、歯周病 WG からベースラインのデータ解析についての研究申請書が提出され承認済みである。

- (2) 合併症の発症と進展抑制に関連する因子の解析には高い追跡率を保つ必要がある。追跡 1 年、3 年および 6 年後の値は、それぞれ 92.1%、77.5% および 50.7%（平成 28 年 3 月 31 日現在）と未だ不十分である。しかし、6 年目報告書までの脱落症例数が 949 名、未回収症例が 1,422 名であることから、現在、未回収症例からの症例報告書の回収に全力を挙げている。尚、症例の追跡は本年度の「9 年目症例報告書」で最終とすることとした。
- (3) 今後の研究の進め方について、研究統括委員会（平成 27 年 11 月 29 日）で討議された結果、平成 29 年度は研究成果の刊行に注力し、平成 30 年 3 月 31 日をもって本研究を完了することが決定し、理事会の承認を受けた。
- (4) 会議などの開催
 - (1) JDCP study 研究調整委員会、同研究統括委員会を各 1 回開催した。
 - (2) JDCP Study News Letter 15・16 号を発行し、参加施設に送付した。
 - (3) 研究委託業者との定例会議を毎月 2 回開催した。データのクリーニングやイベント発生の評価のために、分野別作業部会を計 16 回（食事療法 WG 2 回、運動療法 WG 2 回、大血管 WG 3 回、腎症 WG 3 回、網膜症 WG 3 回、神経障害 WG 1 回、疫学 WG 2 回）開催した。

4) 糖尿病研究の推進 理事長 門脇 孝
AMED の公募研究開発課題として以下の 4 つの研究課題が採択された。

- (1) 分野 1. 健康づくり分野
マクロ栄養素摂取量に関する新たなバイオマーカーの開発に関する研究
「詳細な食事記録を含む大規模経時データと厳格な栄養管理下のメタボロミックスの融合によるマクロ栄養素摂取量に関するバイオマーカーの開発」稲垣暢也 会員
- (2) 分野 3. 生活習慣病対策分野 糖尿病を有する患者に対する血管合併症抑制のための強

化療法の臨床的効果に関する研究

「2型糖尿病患者における厳格な統合的介入が長期予後に及ぼす影響に関する研究 (J-DOIT3 追跡研究)」門脇 孝 会員

- (3) 分野 3. 生活習慣病対策分野 糖尿病における診療の質評価に関する研究

「糖尿病における診療の質評価と地域医療連携評価に関する研究」野田光彦 会員

- (4) 分野 3. 生活習慣病対策分野 糖尿病患者における発癌リスクの解明に関する研究

「糖尿病患者における肝細胞癌発生の実態把握とその分子機構」荒木栄一 会員

また、平成28年度厚生労働科学研究費補助金の糖尿病に関する3課題が採択された。

- (1) 糖尿病性網膜症・下肢壊疽等の総合的な重症度評価の作成と合併症管理手法に関する研究→研究代表者：羽田勝計 会員

- (2) 1型糖尿病の実態調査、客観的診断基準、日常生活・社会生活に着目した重症度評価の作成に関する研究→研究代表者：田嶋尚子 名誉会員

- (3) 糖尿病腎症重症化予防プログラム開発のための研究→日本健康会議重症化予防(国保・後期広域)ワーキンググループ(研究代表者：津下一代 会員)

なお、今後とも必要と思われる研究テーマについて理事会で協議し、AMED、厚労省に要望していく。

36. 分科会に関する報告

日本糖尿病合併症学会 理事長 羽田 勝計
日本糖尿病学会の分科会である日本糖尿病合併症学会は、第30回日本糖尿病合併症学会年次学術集会を、中村二郎会長(愛知医科大学医学部内科学講座糖尿病内科)の下、第21回日本糖尿病眼学会総会と合同で平成27年11月27、28日の2日間、ウインクあいちにて開催した。

年次学術集会は、シンポジウムが合併症学会として7題、眼学会と合同で4題、そして一般演題は例年通り全てワーク・ショップ形式で行われた。市民公開講座も11月28日に開催された。本学会が設けた学会賞各賞の受賞者は以下の各先生で、Outstanding Foreign Investigator AwardはAndrew James Michael Boulton先生(Department of Medicine, Manchester Royal Infirmary), Distinguished Investigator Awardは川上正舒先生(練馬光が丘病院)と片山茂裕先生(埼玉医科大学かわごえクリニック), Expert Investigator Awardは石橋達朗先生(九州大学病院), Young Investigator Awardは野見山崇

先生(福岡大学医学部内分泌・糖尿病内科)、金崎啓造先生(金沢医科大学糖尿病内分泌内科学)、森岡与明先生(大阪市立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学)、森野勝太郎先生(滋賀医科大学 糖尿病・腎臓・神経内科)に贈呈され、受賞講演が行われた。

第31回日本糖尿病合併症学会年次学術集会は、及川真一会長(複十字病院)の下、平成28年10月7、8日の2日間、仙台国際センターにて開催されることが決定している。学会の機関誌「糖尿病合併症」は抄録号を含め3回発行された。

37. 日本糖尿病協会委員会 担当理事 稲垣 暢也
本委員会を規定する細則の条文の改定が昨年5月の社員総会で承認された。これに伴い、今後は新細則第39条に定められた理事長を含む委員構成により委員会を組織し、糖尿病協会との交渉・協議を行うこととなった。

今年度には、本委員会の開催は行われなかった。

38. WHO ICD-11 内科分野内分泌作業部会

内科 TAG 議長 田嶋 尚子

(WHO ICD-11 内科 TAG 内分泌 Working Group)

1) 概要

- (1) 2007年4月、WHO改訂運営会議(RSG)が開催され、ICD-11へ向けたWHOの取り組みが開始した。日本糖尿病学会は2010年から日本内分泌学会とともに、田嶋を内分泌WG議長として内科8分野(消化器、循環器、肝・膵・胆、腎臓、内分泌・糖尿病、リウマチ、血液、呼吸器)の一翼を担ってきた。2013年4月1日からは田嶋が内科TAG議長に就任し、厚労省と共に内科全般についてWHOと協議している。現在、Edward Gregg(米国CDC)と日本内分泌学会の島津章が内分泌WG共同議長を、脇嘉代がManaging Editorを務めている。RSGは月1回定期的に国際電話会議を開催し、20~30名の専門家がICD-11の進捗状況や課題を確認している。また、毎年、WHO FIC Network年次会議が開催(平成27年度は10月17日~23日;英国マンチェスター)されている。
- (2) 本年度は、現在凍結されているWHO ICD-11 β版の外部審査およびフィールドトライアルを行うことが主な活動である。昨年度は内分泌・糖尿病領域の疾患分類階層(foundation)が完成し、各疾患の定義の入力と確認、joint linearization for morbidity and

mortality (JLMM: foundation から疾病統計や死亡統計に必要な項目を抽出し分類)の作成を行った。引き続き JLMM の確認と pre/post-coordination や extension code の取り扱いについて検討し、ICD-10 からの変更部分に対して理論的根拠 (Rationale) をまとめた。

2) 活動内容等

- (1) 平成 27 年 5 月 11 日及び 8 月 19 日に国際電話会議を開催した。5 月 11 日は GURM (泌尿器科) TAG と共に Adrenogenital disorders の取り扱いが議論され、8 月 19 日は内分泌 WG の進捗状況が確認された。
- (2) 平成 27 年 6 月 6 日に内分泌 WG の face to face 会議を ADA 開催中のボストンで実施した。Edward Gregg, 田嶋, 脇で pre/post-coordination に関して意見調整を行った。
- (3) 平成 27 年 6 月から 7 月にかけて腎疾患 WG との間で、incipient/overt nephropathy の取り扱いについてメールベースで議論を重ねた。incipient/overt nephropathy は不要という立場の腎疾患 WG と交渉を重ね、残す方向で合意した。
- (4) 平成 27 年 9 月 28 日～29 日第 7 回内科 TAG face to face 会議を東京で開催した。WHO ICD 分類の責任者である Dr. Ustun 及び Dr. Jakob, RSG 議長 Dr. Chute, 内科分野 Managing Editor (ME) Ms Megan Cumerlato から主要メンバーを迎えて、厚労省 ICD 室、内科 8 分野議長並びに各 ME やオブザーバーなど約 50 名が参加した。WHO から改訂作業の状況報告、Jakob, Megan, Chute の指導による Case summary を用いた coding exercise 等を行なった。WHO ICD-11 改訂作業のゴールは 2018 年 3 月の予定であることが改めて確認された。
- (5) 昨年末よりメールベースで小児科 TAG も交えて Adrenogenital disorders を Conditions affecting reproductive development (CARD) に変更したいという泌尿器疾患 TAG の提案を協議中である。内分泌国内委員の意見では、国際的に受け入れられていない病名を用いるのではなく、Disorders of sex development という従来の名称を踏襲すべき、とのことである。

3) 今後の課題

- (1) JLMM は WHO-ICD10 と近似しており、ICD10 からの連続性が維持される一方で、

専門的な分類は欠落しており、臨床や研究で利用するときに不便を生じないかが懸念される。それについては speciality linealization (ある特定の専門領域でより詳細な項目を必要とする場合のために作成する分類) や national modification/linealization (国別に修正した分類) を別途構築し、内科 TAG で検討することが求められている。糖尿病学会・内分泌学会としても意見をまとめる必要性が出てくる。

- (2) 平成 28 年度 WHO-FIC Network 年次会議は東京で 10 月 8 日～14 日に開催される。情報改革とビッグデータ解析 (Data Revolution and Big Data) を視野に入れた ICD 改定を目指すことが Dr. Ties Boerma (Director, Department of Information, Evidence and Research, WHO) からアナウンスされた。わが国の状況に適応した WHO ICD-11 日本版の完成に向けた対応が必要とされている。

〈合同委員会に関する報告〉

39. 糖尿病性腎症合同委員会 世話人 羽田 勝計
第 41 回糖尿病性腎症合同委員会を、2015 年 12 月 6 日に開催した。日本腎臓学会から、DNETT-Japan 研究報告および AMED 研究班「糖尿病性腎症ならびに腎硬化症の診療水準向上と重症化防止にむけた調査・研究」の報告が行われた。本学会から、「糖尿病治療ガイド」に関する報告を行い、食事療法におけるたんぱく質および食塩相当量、生活指導における妊娠・出産の各項目について検討した。

40. 臓器移植中央調整委員会/移植関係学会合同委員会/臓器移植関連学会協議会

1) 臓器移植中央調整委員会 委員長 岩本 安彦
日本糖尿病学会選出委員: 栗田卓也, 稲垣暢也, 岩本安彦

平成 27 年 10 月 1 日と平成 28 年 3 月 4 日に委員会を開催した。主な活動は以下の通りである。

①平成 28 年 1 月 31 日現在の臓器移植希望者申請書類受付は 692 件、ネットワーク登録済みは 561 件 (うち死体臓移植済み 245 件、生体臓移植 5 件、待機中死亡 50 件、取り消し 58 件)、登録中は 203 件 (うち臓同時移植 156 件、臓単独移植 49 件) であることが報告された。②長崎大学より臓器移植実施施設の申請があり、2 回の委員会で検討を行った。平成 27 年 10 月 1 日の委員会では、関連科との連携の証明や臓器移植チームメンバーの留学 Certification の提出、移植マニュアルの修正等について対応が必要

との意見が出され、評価「保留」として、一旦差し戻した。平成28年3月4日には、長崎大学より修正された申請書が提出され、新たな修正箇所があり、追加の修正をお願いすることとした。指摘箇所が修正されれば、本委員会としては「認定可」とし、移植関係学会合同委員会に諮る予定である。③膵臓移植レシピエント適応基準の「血糖の不安定性」について、適切に記載されていない申請書が多いことや要綱上も基準が曖昧であるため、「膵・膵島移植に関する常置委員会」と連携して検討し、膵臓単独移植の申請の場合には48時間以上のCGMを必須とする方向で、CGM測定条件等の検討を進めることとした。④膵臓移植実施施設の認定期間が平成28年8月31日であるため、更新手続きを持ち回り審議で行うこととした。また、膵臓移植実施施設の代表者が異動等で交代した場合に本委員会が適切なタイミングで把握ができていない現状があり、移植が滞る等の患者さんへの不利益が発生しないように、定期的に問い合わせを行うこととした。⑤2010年12月に改訂された「膵臓移植に関する実施要綱」が策定から5年経過しているため、改訂を進めることとした。

2) 移植関係学会合同委員会

委員 稲垣 暢也, 岩本 安彦

平成27年6月19日付けで第33回移植関係学会合同委員会が持ち回り審議にて開催された。審議事項は、肝臓移植実施施設(18歳以上(レシピエント登録を18歳未満で行った者に限る。))の認定について(国立研究開発法人 国立成育医療研究センター)で、委員全員から賛成の意見が出され、承認された。

3) 臓器移植関連学会協議会

日本糖尿病学会 世話人 岩本 安彦

平成27年9月13日(第22回)に協議会が開催された。

主な議題は、「最近の臓器移植関係の制度の動きについて」で厚生労働省より説明があった。移植適応評価委員会の負担が大きいため、肝移植に関しては来年4月から適応検討が各施設に委ねられることになった。また、第1回目の脳死判定後からレシピエントの施設に連絡を取っても良いこととし、従来よりも手続きを早めに開始できるように変更される予定である。

41. 糖尿病医療の情報化に関する合同委員会

委員長 谷澤 幸生

1) 5月20日 定例理事会にて、委員長交代(田嶋尚子先生→谷澤幸生)および委員交代(田嶋尚子

先生→中神朋子先生)について承認された。

- 2) 本学会で取り組んでいる「J-DREAMS」と本合同委員会との関連性を鑑み、「J-DREAMSに関するワーキンググループ」メンバーである植木浩二郎先生の委員就任を提案し、2月18日 臨時理事会にて承認された。(3月18日 日本医療情報学会理事会でも承認)
- 3) 第58回年次学術集会(山口)にて合同シンポジウム「進めよう!糖尿病診療のデータベース化と2次利用」(5月22日)を、第35回医療情報学連合大会(沖縄)にて共同企画「6臨床学会が進める4慢性疾患の項目セットによるPHR(Personal Health Record)事業『電子版生活習慣病管理手帳』」(11月3日)を開催した。第59回年次学術集会(京都)での合同シンポジウム「糖尿病におけるPHR(Personal Health Record)~生活習慣病手帳やお薬手帳の電子化と活用~」(2016年5月20日)に向けて準備している。
- 4) 「どこでもMY病院疾病記録」の継続的管理のための関連学会による協議会については、日本臨床検査医学会の参加が決定し(平成26年度同学会理事会にて承認)、「6学会拡大協議会」(仮称、日本糖尿病学会/日本高血圧学会/日本動脈硬化学会/日本腎臓学会/日本臨床検査医学会+日本医療情報学会)として今後開催することを検討している。
- 5) 平成26年度に承認された以下研究課題への「研究協力および連携」につき、当該研究課題が平成27年度厚生労働科学研究費補助金の交付課題として採択されたため、今後実際に協力を行っていく予定としている。

■研究課題:

満武巨裕先生(一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構)

「レセプト情報・特定健診等情報データベースを利用した医療需要の把握・整理・予測分析および超高速レセプトビッグデータ解析基盤の整備」

42. 糖尿病と癌に関する合同委員会

代表 植木浩二郎

委員: 大橋 健, 春日雅人, 田嶋尚子, 野田光彦

平成27年9月2日に委員会を開催し、疫学WGで作成した「糖尿病患者における血糖管理とがん罹患リスクに関するレビュー」と「がん治療中の糖尿病管理に関する調査」について検討した。

レビューは、内容をbrush upして、両学会の学会誌に掲載した(糖尿病, Diabetology International, Cancer Science)。

調査は、がん治療認定医（関東圏のみ）と糖尿病専門医を対象に実施することとし、糖尿病専門医においては、会員管理アンケートシステムを利用することとした。

また、基礎研究については、両学会共同で、研究費が獲得できるようなテーマを模索し、厚労省やAMEDへ提案することも視野に検討することとした。

43. 日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同委員会

代表 荒木 栄一

委員：井上 啓，春日雅人，窪田直人，島野 仁，綿田裕孝，

平成 27 年 5 月 23 日に第 2 回肝臓と糖尿病・代謝研究会が下関にて開催された（第 58 回年次学術集会と同時開催，事務局担当：日本糖尿病学会）。参加者数は 459 名で、シンポジウム（5 演題），ワークショップ 2 つ（計 10 演題），ランチョンセミナー（2 演題），一般演題（口演 10 演題，ポスター 82 演題）が行われた。シンポジウムではヘルシンキ大学の Hannele Yki-Järvinen 教授の基調講演「Non-alcohol fatty liver disease : lessons from human studies」が行われた。YIA 受賞者は 6 名で、ワークショップにて口演発表が行われた。また、肝臓学会と糖尿病学会の連携を基盤とした研究「糖尿病外来における肝細胞癌発生の実態把握」について経過報告が行われ、研究の成果や発展性について議論が交わされた。

また、平成 28 年 1 月 24 日に、第 3 回研究会に関する打ち合わせを行い、以下の結論に至った。1) 第 3 回研究会は、平成 28 年 7 月 16 日開催予定とし（会長：金沢大学 金子周一先生）、テーマは「内分泌臓器としての肝臓」とする。2) シンポジウム，特別講演，ワークショップ，ポスター討論の他，共同研究の中間報告を行う。3) 参加費，YIA，専門医制度認定単位等は，第 1，2 回研究会と同様とする。4) 一般演題の募集期間は，平成 28 年 1 月 27 日～3 月 23 日（その後，4 月 6 日まで延長）とする。

さらに，第 4 回研究会は，第 60 回年次学術集会と同時開催することとし，会長も第 60 回年次学術集会の中村二郎会長が担当することとなった。開催日は，平成 29 年 5 月 18 日，19 日，20 日のいずれか 1 日とする。

共同研究事業については，厚労班研究『非アルコール性脂肪性肝疾患の病態解明と診断法，治療法の開発に関する研究』の糖尿病コホートについて追跡調査を行い，新規発癌例 17 例を認めた。うち，3,580 例の非発癌例を対照群とした肝臓学会との共同研究「糖尿病外来における肝細胞癌発生の実態把握」のプ

ロトコールを作成し，2016 年 4 月 16 日開催予定の AMED「糖尿病患者における発癌リスクの解明に関する研究」班 Kick-off Meeting にて詳細を討論する予定である。

44. 日本糖尿病・妊娠学会と日本糖尿病学会の合同委員会

委員 羽田 勝計

前回報告した妊娠糖尿病診断基準改訂案および妊娠時の SMBG 適応拡大方針に関し，メール委員会で検討を重ねた。電子媒体を用いた理事承認を受けた後，「妊娠中の糖代謝異常と診断基準（平成 27 年 8 月 1 日改訂）」として施行した。また，日本糖尿病・妊娠学会の申請により，妊婦の糖代謝異常に対する血糖自己測定（SMBG）保険適応拡大が認められることとなった。

45. 高齢者糖尿病の診療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会

委員 羽田 勝計

平成 27 年 4 月 3 日（東京），6 月 13 日（横浜），平成 28 年 1 月 7 日（東京），3 月 16 日（東京）の 4 回委員会を開催した。日本老年医学会が策定する「高齢者糖尿病診療ガイドライン」の骨格を討議することとなり，まず，「高齢糖尿病患者の血糖コントロール目標」について議論を重ね，最終案について両学会が合意した。本件は，今回の年次学術集会のシンポジウムで報告すると共に，「糖尿病診療ガイドライン 2016」および「糖尿病治療ガイド 2016-2017」に掲載する予定である。

46. J-DREAMS 合同委員会

委員長 羽田 勝計

委員：植木浩二郎，大津 洋，梶尾 裕，杉山雄大，曾根博仁，谷澤幸生，美代健吾，矢部大介，綿田裕孝

平成 27 年 5 月 20 日に開催された定例理事会において，国立国際医療研究センター（以下，NCGM）との共同研究が承認され，同年 11 月 23 日の定例理事会において，本研究の正式名称を診療録直結型全国糖尿病データベース事業；英語名称を Japan Diabetes compREhensive database project based on an Advanced electronic Medical record System（以下，J-DREAMS）とすることが承認された。

平成 27 年 11 月 27 日に第 1 回 J-DREAMS に関するワーキンググループ（以下，WG）を開催し，『J-DREAMS データベース取り扱い規約』について検討した。また，J-DREAMS 合同委員会の設置についても検討し，平成 28 年 2 月 18 日の臨時理事会に

て承認され、WG メンバーがそのまま委員へと移行された。

平成 28 年 2 月 6 日には、J-DREAMS キックオフミーティングが開催され、平成 27 年度本事業へ参加する施設が一堂に会し、研究やシステムの概要、今後の課題などの説明が行われた。

平成 28 年 3 月には、J-DREAMS 参加 29 施設に対し、NCGM と共同で登録促進に関する要望書を提出した。

〈その他の報告〉

47. 医療スタッフ入会促進のための活動

理事長 門脇 孝

専門医制度の変更により、医師の会員比率 80% 条項が撤廃される見込みである。学会の発展と会員数の増加を目指して、医療スタッフの入会を促進するためのワーキンググループを設置し、入会のインセンティブとなる会員特典について 2015 年 11 月 6 日および 2016 年 2 月 7 日に具体案を検討した。

(1)「日本糖尿病学会 医療スタッフ優秀演題賞(仮)」の新設など、医療スタッフ会員を対象とした顕彰制度の拡充、(2) 非会員の年次学術集会参加費見直しを理事会に提案した。

48. 日本糖尿病学会設立 60 周年記念事業

理事長 門脇 孝

平成 19 年に学会設立 50 周年の記念事業を行ったが、その後の 10 年間で、本学会は、内外の関係各位や関連諸団体と密接に連携しながら、我が国の糖尿病学術研究活動の更なる発展、糖尿病治療・予防の更なる向上、未来を担う人材育成を活発に推進してきた。この 10 年間で改めて振り返り、これらの活動を若い世代にも継承し、さらに発展させるために、60 周年記念事業を平成 29 年 12 月 15 日(金)を行うことを提案し、理事会で承認された。

平成 27 年 11 月 7 日にワーキンググループを開催し、以下の内容について決定した。

1) 記念事業の内容としては、① 60 周年記念誌の発行、② シンポジウム、式典、祝賀会の開催を実施する。2) 役割分担は、実行委員長：門脇孝理事長、準備委員長：植木浩二郎常務理事、財務担当：谷澤幸生常務理事、出版担当：荒木栄一常務理事、シンポジウム担当：羽田勝計常務理事、式典担当：稲垣暢也常務理事とする。3) シンポジウムおよび式典は一橋講堂で、祝賀会は学士会館で実施する。

また、平成 28 年 1 月 11 日に打ち合わせを行い、事業全体の予算を 3,000 万円程度とすること、シンポジウムは 50 周年以降の 10 年のあゆみに焦点を当

てた内容とすること、等を決定し、理事会承認を得た。

49. 免疫チェックポイント阻害薬に対する注意喚起

理事 植木浩二郎

ニボルマブ製剤を含む免疫チェックポイント阻害薬使用時の劇症 1 型糖尿病の副作用について、日本臨床腫瘍学会、厚生労働省と連携を取り、注意喚起を行った。高い確率で劇症 1 型糖尿病の副作用が発生しており、広く注意喚起する必要があるため、2016 年 1 月 29 日、日本臨床腫瘍学会のホームページと本学会のホームページに同時に文書を掲載した。

日本人 1 型糖尿病の成因、診断、病態、治療に関する調査研究委員会を中心に作成した「免疫チェックポイント阻害薬使用患者における 1 型糖尿病の発症に関する Recommendation (案)」について関連する 4 学会(日本皮膚科学会、日本呼吸器学会、日本肺癌学会、日本臨床腫瘍学会)と意見を交換しており、近日公表予定としている。

50. Metabolic surgery のガイドラインに関する endorsement

理事長 門脇 孝

The 2nd Diabetes Surgery Summit (ADA・Chinese Diabetes Society・Diabetes India・Diabetes UK・EASD・IDF が公式パートナー学会として支援)による Joint Statement「Metabolic Surgery in the Treatment Algorithm for Type 2 Diabetes: A Joint Statement by International Diabetes Organizations」への日本糖尿病学会としての賛同(endorsement)について、要望が届けられた。本 Joint Statement はすでに約 20 カ国の糖尿病学会などによる endorsement を得て、Diabetes Care に近日掲載される予定である。本 Joint Statement は、「BMI $\geq$ 40 (アジア系は $\geq$ 37.5)、または生活習慣介入および薬物治療をつくしても血糖コントロール困難な BMI $\geq$ 35 (アジア系は $\geq$ 32.5)」の 2 型糖尿病患者に肥満手術を推奨(recommend)するもので、現在日本における手術適応基準である「6 ヶ月以上の内科的治療で有意な体重減少および糖尿病を含む肥満関連健康障害の改善が認められない BMI $\geq$ 35 の高度肥満症」および「BMI $\geq$ 32 で糖尿病、または糖尿病以外の二つ以上の肥満関連健康障害を有する患者」と大きく乖離するものではなく、制約するものではない。今回の趣旨に賛同することは、今後よりよいガイドラインの作成やエビデンス構築のための情報交換の場に加わる資格を確保する上で重要と考えられ、2016 年 4 月 19 日、全理事の承認によるみなし決議により、endorsement することとなった。

51. 禁煙宣言について 理事 植木浩二郎

2020 年に開催の東京五輪・パラリンピックに向け、受動喫煙規制の法制化が報じられていることから、本学会では広報委員会で、禁煙宣言について検討し、下記を理事会へ提案することとした。

- 1) 学会本体が主催する年次学術集会や糖尿病学の進歩開催時の会場「敷地内」の禁煙化を第 60 回年次学術集会より実施すること。
- 2) 宣言は会員一人一人に強制まではせず「目指す宣言」に留めることとし、「My Page」を活用し会員個々に「禁煙宣言」してもらうこと。
- 3) エビデンスに基づいて、糖尿病の発症や合併症に及ぼす喫煙の害、禁煙の効果について広報すること。
- 4) 啓発活動としてスライドなどのツールを作成し、学会ホームページに掲載して自由にダウンロードできるようにすること。

52. 日本糖尿病療養指導士認定機構の役員について

理事長 門脇 孝

本学会より、職種指定の 2 名を含む理事 14 名と監事 1 名を日本糖尿病療養指導士認定機構の次期役員として推薦した。

理事

吉岡 成人	NTT 東日本札幌病院	2 期目	北海道
奥口 文宣	奥口内科クリニック	3 期目	東北
島田 朗	埼玉医科大学	3 期目	関東甲信越
宇都宮一典	東京慈恵会医科大学	3 期目	関東甲信越
寺内 康夫	横浜市立大学附属病院	3 期目	関東甲信越
渥美 義仁	永寿総合病院糖尿病臨床研究センター	2 期目	関東甲信越
井上 岳*	北里大学薬学部	1 期目	関東甲信越
古家 大祐	金沢医科大学	1 期目	中部
油野 友二**	北陸大学	1 期目	中部
佐々木秀行	和歌山県立医科大学附属病院紀北分院	1 期目	近畿
福井 道明	京都府立医科大学大学院医学研究科	1 期目	近畿
前川 聡	滋賀医科大学	3 期目	近畿
大澤 春彦	愛媛大学大学院医学系研究科	1 期目	中国・四国

小林 邦久	福岡大学筑紫病院	2 期目	九州
-------	----------	------	----

*：薬剤師，**：臨床検査技師

監事

清水 一紀	心臓病センター 榊原病院	1 期目	中国・四国
-------	-----------------	------	-------

53. 平成 28 年熊本・九州地震への対応について

対策本部長 門脇 孝

平成 28 年 4 月 14 日に発生した前震、およびその後発生した平成 28 年熊本・九州地震への対応を行うため、4 月 17 日に「日本糖尿病学会 熊本・九州地震対策本部」を設置し、糖尿病患者ならびに医療関係者への支援活動を行っている。

3. 「糖尿病学の進歩」開催について

第 52 回「糖尿病学の進歩」

会 期 平成 30 年 3 月 2 日（金）・3 日（土）（予定）

会 場 福岡国際会議場、福岡サンパレス（予定）

世話人 井口登與志（九州大学先端融合医療レドックスナビ研究拠点）

※第 53 回「糖尿病学の進歩」の開催支部が東北支部に決定した。

4. 平成 27 年度収支決算に関する件

定時社員総会で審議の上、平成 27 年度収支決算書が承認可決された。（本号 p39～p64）。

5. 平成 29 年度事業計画に関する件

定時社員総会で審議の上、平成 29 年度事業計画が承認可決された。（本号 p65～p66）。

6. 名誉会員の推薦に関する件

理事会が推薦した小林正会員が定時社員総会において承認された。

7. 次々会長（第 62 回学術集会）の選任に関する件

学術評議員会にて投票により第 62 回会長に山田祐一郎会員が選出され、定時社員総会において承認された。

8. 第 60 回年次学術集会に関する件

平成 29 年 5 月 18・19・20 日の 3 日間、名古屋国際会議場（名古屋市）において開催の予定である。

9. 理事および監事の承認に関する件

各支部から推薦された18名の理事候補者と学術評議員会から推薦された2名の監事候補者の就任が定時社員総会において承認された。

1. 理 事

北海道支部	吉岡 成人	NTT東日本札幌病院 糖尿病内分泌内科
東北	片桐 秀樹	東北大学大学院医学系 研究科糖尿病代謝内科学分野
関東甲信越	植木浩二郎	国立国際医療研究センター 糖尿病研究センター
	内潟 安子	東京女子医科大学糖尿病・代謝内科
	宇都宮一典	東京慈恵会医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科
	門脇 孝	東京大学大学院医学系 研究科代謝栄養病態学 (糖尿病・代謝内科)
	田中 逸	聖マリアンナ医科大学 代謝・内分泌内科
	綿田 裕孝	順天堂大学大学院代謝 内分泌内科学
中部	戸邊 一之	富山大学医学部第一内科
	中村 二郎	愛知医科大学医学部内 科学講座糖尿病内科
近畿	池上 博司	近畿大学医学部内分泌 代謝糖尿病内科
	稲垣 暢也	京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学
	小川 渉	神戸大学大学院医学系 研究科糖尿病・内分泌内科
	前川 聡	滋賀医科大学糖尿病・腎臓・神経内科
中国・四国	大澤 春彦	愛媛大学大学院医学系 研究科糖尿病内科学
	谷澤 幸生	山口大学大学院医学系 研究科病態制御内科学分野
九州	荒木 栄一	熊本大学大学院生命科学研究部 総合医薬科学部門生体機能病態学講座 代謝内科学分野
	井口登與志	九州大学先端融合医療 レドックスナビ研究拠点

以上18名

2. 監 事

山田祐一郎	秋田大学大学院医学系研究科内分泌・代謝・老年内科学
島田 朗	埼玉医科大学内分泌糖尿病内科

以上2名

10. 各種委員会委員の交代等に関する件

1. 任期満了に伴い下記委員会の委員が交代することとなった。

「Diabetology International」編集委員会

北海道支部	羽田 勝計	旭川医科大学内科学講座 病態内科学分野
東北	佐藤 博亮	福島県立医科大学腎臓 高血圧糖尿病内分泌代謝 内科学
関東甲信越	宇都宮一典	東京慈恵会医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科
	春日 雅人	国立国際医療研究センター
	島田 朗	埼玉医科大学内分泌糖尿病内科
中部	戸邊 一之	富山大学医学部第一内科
近畿	荒木 信一	滋賀医科大学内科学講座 (糖尿病・腎臓・神経内科)
	西 理宏	和歌山県立医科大学病 態栄養治療部
中国・四国	松久 宗英	徳島大学糖尿病臨床・研究 開発センター
九州	中島 直樹	九州大学病院医療情報部

※今回改選の委員のみ掲載

2. 下記委員会において委員の追加、交代が承認された。

○「糖尿病専門医研修ガイドブック作成委員会」

委員追加

新委員

竹田 孔明 山口大学医学部附属病院第三内科

○睪・睪島移植に関する常置委員会 委員交代

旧	新
後藤 満一 (福島県立医科大学)	→ 剣持 敬 (藤田保健衛生大学)

○専門医認定委員会 関東甲信越支部 委員交代

旧	新
岡本真由美 (日本大学医学部内科学系糖尿 病代謝内科学分野)	→ 藤城 緑 (日本大学医学部内科学系糖尿 病代謝内科学分野)

※任期：2016 年度まで

3. 睪島移植地域適応検討委員会の一部委員の交代を含む今後の委員候補者

北海道ブロック

斎藤 重幸 (ブロック代表者)
札幌医科大学保健医療学部

渥美 達也
北海道大学大学院医学研究科内科系内科学講座
西尾 妙織
北海道大学病院 第二内科
吉田 英昭
札幌医科大学医学部 第二内科

東北ブロック

片桐 秀樹 (ブロック代表者)
東北大学病院 糖尿病代謝科
佐藤 博亮
福島県立医科大学
佐藤 博
東北大学医学部附属病院腎・高血圧・内分泌科
田熊 淑男

仙台社会保険病院腎センター 内科
関東甲信越ブロック

島田 朗 (ブロック代表者)
埼玉医科大学内分泌・糖尿病内科

西村 理明
東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科
成田 一衛
新潟大学大学院医歯学総合研究科
新田 孝作
東京女子医科大学第四内科

中部ブロック

中島英太郎 (ブロック代表者)
中部ろうさい病院 糖尿病・内分泌内科
佐々木洋光
春日井市民病院内科
湯澤由紀夫
藤田保健衛生大学医学部腎臓内科
両角 國男

名古屋第二赤十字病院腎臓病総合医療センター
近畿ブロック

今川 彰久 (ブロック代表者)
大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科
山崎 真裕
京都府立医科大学
中西 健
兵庫医科大学内科学

猪阪 善隆
大阪大学大学院医学系研究科老年・腎臓内科学
中国・四国ブロック

谷澤 幸生 (ブロック代表者)
山口大学大学院医学系研究科病態制御内科学分野
松久 宗英

徳島大学糖尿病臨床・研究開発センター
和田 淳
岡山大学大学院医歯学総合研究科
柏原 直樹
川崎医科大学腎臓・高血圧内科
九州ブロック

岸川 秀樹 (ブロック代表者)
熊本大学医学部保健センター
安西 慶三
佐賀大学医学部内科学講座
平方 秀樹
福岡赤十字病院腎臓内科
上木原宗一
熊本赤十字病院内科
※下線の委員が改選またはブロック代表の変更

11. 平成 28 年度選挙管理委員会委員の承認について

細則第 44 条により、下記のように承認された。

北海道支部	三木 隆幸	札幌医科大学医学部
東北支部	檜尾 好徳	仙台市立病院
関東甲信越支部	佐々木 敬	東京慈恵会医科大学
中部支部	榊原 文彦	住吉町クリニック
近畿支部	前川 聡	滋賀医科大学
中国・四国支部	松久 宗英 発センター	徳島大学糖尿病臨床・研究開
九州支部	水流添 覚	天草市立栖本病院
会長経験者	谷澤 幸生	山口大学

12. 「糖尿病学の進歩」プログラム委員会について

細則第 48 条④により、下記のように決定された。

「糖尿病学の進歩」プログラム委員会

第 50 回「糖尿病学の進歩」世話人	内潟 安子
第 51 回「糖尿病学の進歩」世話人	中村 直登
第 52 回「糖尿病学の進歩」世話人	井口登與志
第 59 回会長	稲垣 暢也
第 60 回会長	中村 二郎
学術担当常務理事	荒木 栄一
庶務担当常務理事	植木浩二郎
会計担当常務理事	中村 二郎

13. 学会後援について

申し込みのあった 10 件を後援することとした。

1. 「糖尿病の検出及び発症予防」事業 糖尿病予防
キャンペーン 平成 27 年 12 月 23 日
2. 第 4 回日本糖尿病療養指導学術集会
平成 28 年 7 月 23 日～24 日

3. 第 33 回糖尿病 Up・Date 賢島セミナー
平成 28 年 8 月 27 日～28 日
4. 第 16 回日本先進糖尿病治療研究会
2016 年 11 月 26 日
5. 第 22 回日本小児・思春期糖尿病研究会年次学術
集会
2016 年 7 月 10 日
6. 第 21 回国際疫学会総会
2017 年 8 月 19 日～22 日
7. 第 8 回「より良い特定健診・保健指導のためのス
キルアップ講座」
生活習慣病改善指導講習会
(東京) 平成 28 年 6 月 12 日
(神戸) 平成 28 年 6 月 25 日
8. 第 28 回分子糖尿病学シンポジウム
平成 28 年 12 月 3 日
9. 2016 年度全腎協全国大会 平成 28 年 5 月 15 日
10. 第 3 回チャレンジ！糖尿病いきいきレシピコン
テスト
平成 28 年 10 月 9 日

14. 日本糖尿病学会糖尿病専門医規則改定について
専門医制度規則の改定が学術評議員会において承認
された。

15. 高齢者糖尿病の血糖コントロール目標値について
高齢者糖尿病の診療向上のための日本糖尿病学会と
日本老年医学会の合同委員会が提案し両学会で承認さ
れた高齢者糖尿病の血糖コントロール目標値について
5 月 20 日に記者発表が行われた。

以上 文責 庶務担当常務理事 植木浩二郎